2016年
Vol. 44
ー季刊年4回発行ー

私たちは、いつもココロでつながっている。
さあ！みんなで世界へふみ出そう!!

NEWS Letter

二本松青年海外協力隊訓練所

ADATARA
あだたら

特集1 教師海外研修参加者レポート
「野口英世の夢の大地・ガーナへ！」

特集2 現地レポート
「世界で活躍するJICAボランティア」
エチオピア 星　千尋さん
［白河市出身］

VOICE JICA応援団
二本松青年会議所
神野 聴文さん

2016年度教師海外研修　ガーナ派遣での一コマ

特集1 現地レポート

野口英世の夢の大地・ガーナへ！

奴隷貿易の拠点で負の遺産として世界遺産となっているエルミナ城にも訪れた

諏佐 好美先生と現地の子供

◆現地日程

7/30㊏
成田空港出発

7/31㊐
ガーナ首都アクラ到着
JICA事務所にてブリーフィング

8/1㊊
「野口英世研究所」訪問
「野口英世記念館」訪問

8/2㊋
テテクワシ・カカオ農園視察
チョコレート工場訪問

8/3㊌
青年海外協力隊員
活動現場視察

8/4㊍
JICA帰国研修員との
意見交換会

8/5㊎
青年海外協力隊員
活動現場視察：
「グラスカッター(大型ネズミ)」の
煮込み料理試食

8/6㊏
Kakum National Park
(カクムナショナルパーク)見学
エルミナ城見学

8/7㊐
日本人学を訪問

8/8㊊
青年海外協力隊員活動
現場視察

8/9㊋
JICA事務所にて最終報告会
ガーナ出発

8/10㊌
羽田空港到着、解散

チョコレートの原材料のカカオ

学校の教員が国際協力の現場を訪れるJICAの「教師海外研修」。2016年度JICA二本松からはアフリカのガーナへ福島県の先生方8名を派遣しました。ガーナといえば猪苗代町出身の野口英世博士。黄熱病の研究中にガーナの首都アクラでその生涯を終え、現在アクラでは野口英世の名を冠した「野口研究所」が西アフリカの感染症対策の中核的な役割を担っています。

今回のガーナ派遣の渡航は、福島県では学校がちょうど夏休みとなる7月30日～8月10日。先生方から感想を伺いました。

〈団長〉佐藤 正命 教諭　三春町立中郷小学校

ガーナに行って感じたことは「町に、人に、パワーがある!」ということでした。

町を歩くたくさんの人、飛び交う言葉、流れる音楽などから常に熱気のようなものを感じていました。一方で所得の格差やインフラ、教育の不十分さなど途上国としての課題があることも学びました。これから出会う子ども達には今回のガーナでの体験を伝え、生き方や価値観は1つだけではないということを伝えていきたいと思います。

石井 伸弥 教諭　福島県立安達高等学校

研修中、毎日がとても充実していた。それは、毎日が新しい発見に満ちていたからだと思う。普段の生活でも新しいことを日々見つけなくてはいけないと反省しつつも、やはり海外というのは手軽に新発見ができる場だ、と改めて感じた。

現地で得た驚きや感動、違和感や切なさを伴った発見の数々。これらの経験を基に実践を行い、生徒達の世界を広げること、そして海外研修への参加を語学力や勇気の問題で踏みとどまっている生徒の後押しをすることをこれからの目標としたい。

岩本 美和子 教諭　喜多方市立松山小学校

募集要項～野口博士の夢の大地アフリカ. ガーナへ～の言葉に魅せられ、応募しました。今回1番印象に残ったのは、協力隊やJICA職員などの日本人の方々が活躍している姿です。その行動の原動力は何だろうと考えた時、「夢」が思い浮びました。ガーナで出会った子ども達や大人の方々も明確に「夢」を語ってくれました。行ってみたガーナは色々な意味で、夢の大地でした。

亀田 弥生 教諭　福島県立いわき養護学校

今回の研修で感じたのは、ガーナの人々が日本に寄せる関心の高さ、それとは対照的に私を含む日本の人々が抱くガーナへの理解の低さです。対等な立場で国際協力していく為に私達教員が出来ること、それはまず「伝える」事なのではないかと思いました。お互いを知る事こそが国際理解の第一歩。そんな一歩を後押し出来る人でありたいと実感する充実した研修になりました。

ガーナの首都アクラにある野口英世の像

左から順に、横田先生→石井先生→佐藤先生→菊地先生→亀田先生→諏佐先生→岩本先生→藤先生

菊地 幸恵 教諭　天栄村立牧本小学校

研修を通して、「当たり前」は、本当は「有り難い」ということや、「幸せ」は自分自身が決めるものだということを感じました。初めての海外でしたが、水と電気がある有り難さ、日本人のおもてなしやサービスの素晴らしさなど、日本のよさを再確認できました。また、子どもたちの笑顔や輝く瞳、資質に違いはなく、取り巻く環境が重要であることを学びました。この経験を生かし、子ども達と最善の環境を創っていきたいと思います。

諏佐 好美　教諭　いわき市立小玉小学校

何かに引き寄せられるように参加した研修でしたが、本当に充実した10日間でした。ガーナの暮らしに触れ、そこに暮らす人々や活躍している日本人との出逢いを通して、今までと違う視点を持つことが出来ました。また、今までの仕事や生活で感じていたことに、確信が持てた部分もありました。持ち帰ってきたものはたくさんあるので、整理しながら伝えていきたいと思います。

藤　美和　教諭　南会津町立舘岩小学校

ガーナでは、普通の海外旅行ではできない貴重な体験をさせていただきました。野口研究所をはじめJICAの活動や青年海外協力隊員の活動地を訪れ、「驚き」と「感動」の連続でした。移動中のバスの車窓から見える風景は遠いアフリカの国のはずなのにどこか懐かしい日本を感じさせます。これからこの感動を子ども達に伝えていきたいと思います。

横田　潤　教諭　福島県立いわき総合高等学校

ガーナと日本との繋がりをとても感じた研修であった。野口英世の最後の地であるアクラを訪れ、実際に研究していた場所を見学することができ、同じ県民として感慨深いものがあった。野口英世の功績から医療分野での繋がりやカカオ・レアメタルの輸入などガーナは日本にとって大切な国であることがわかった。また、日本はガーナの発展に向けて様々な支援をしているが、それはいずれ日本のためになる可能性があることも学ぶことができた。今回の海外研修の学びを、教育現場にて子どもたちに還元したい。

今回ガーナに渡航した先生方はこの経験を反映させた授業を各学校で実践中です。その成果は年度末に「JICA二本松・教師海外研修ガーナ派遣報告会」として開催予定です。開催日・場所はJICA二本松HPイベント情報欄に掲載いたします。

特集2

世界で活躍するJICAボランティア

～未知の体験を子供たちに！～

3年生　図工の授業。ジャガイモに絵の具をつけて、スタンプ。

8年生　体育　縄跳びで2重跳びに挑戦。

派遣国：エチオピア　職種：小学校教育
星　千尋さん（白河市）

標高約2500m、エチオピアの首都アディスアベバで小学校教育隊員として活動しています、星千尋と申します。わたしは、小学校で音楽・体育・図工といった情操教育の授業実践・普及、現地の先生たちへの技術伝達などを行っています。

エチオピアは東アフリカに位置しています。首都のアディスアベバでは新しいビルが次々と建設され、車がたくさん走っています。私が赴任した昨年の10月頃から電車も開通し、経済成長の著しさが感じられます。一方、首都から足を延ばすと、コーヒー発祥の地、歴史的・宗教的な世界遺産、今も伝統的な生活を続ける部族などを訪れることもできます。アムハラ語というエチオピアにしかない言語とその言葉を表記するフィダルという文字を使っていたり、エチオピア正教という独自の宗教があったりと、独自の伝統・文化を重んじている国です。

そんなエチオピアの人々は、あいさつを大切にしています。道を歩いていると、「サラムノ（今日も平和だね）」と声をかけてくれます。子どもたちも同様で、学校に行くと毎日わたしのところに来て、笑顔であいさつをしてくれます。好奇心旺盛で素直で、吸収力いっぱいの子どもたちです。音楽・体育・図工の授業を通して、「今までできなかった」「知らなかった」ことを少しでも多く経験できるよう、活動していきたいです。

3年生　体育の授業。けんけんぱ。並んで待つことも大切な学習。

少し郊外に行くと、道路を羊やヤギ、ロバが横切ることも。

質問コーナー

第3回目

あなたにとって○○とは?

このコーナーでは、派遣中の隊員や帰国後のOV、JICA二本松のスタッフなど、
JICAボランティアとして活躍している隊員や帰国後にJICAで得た経験を通して社会で活躍している方たちに
「あなたにとって○○とは?」という質問をしました!!
第3回目となる今回のテーマは、**「現地で感じたカルチャーショックとは?」**です。

平成26年度3次隊 タンザニア
矢部翔太郎さん

「じゃんけんのない世界」です。

日本で公平に勝敗を決めるときにおこなうものと言えば「じゃんけん」。しかしタンザニア、じゃんけんという文化がない。どう決めるかというと、話し合い。そんなタンザニアでじゃんけんを教えることに。しかしチョキのピースがこの国では一政党を支持する意味に。最後にはチョキを出せばなんでも勝ちという謎のルールになってしまった。

「寒さがもたらした悲劇」です。

私の配属先があるウランバートル市は、上下水道が大分整備されています。そして上水には冷水と温水の2種類あり、水道管が2本並列しメーターも2つ付いています。冬に凍結せず、すぐにお湯が出るとは有り難い!と喜ぶ反面、夏季は温水不要のため冷水のみです。ポットのお湯で行水する夜が続き、寒い夏を体験しました。

平成28年度1次隊 モンゴル
大槻美佳さん

平成59年度2次隊 ネパール
小杉　誠さん

「同性同士の信頼関係に困惑」です。

街中でよく見かけましたが、大人の男性同士で指を絡ませてたり、手をつないだりして歩く習慣です。友達として自然なこと、男女では逆にタブーと言っていました。

私は協力隊精神で生活したつもりですが、最後までカウンターパートや友達と手をつないで歩けませんでした。

VOICE
ボイス
～JICA二本松応援団～

　このコーナーでは日頃よりJICA二本松を応援して下さっている方にJICAボランティアとのエピソードや期待・エールをインタビューします。
　今回は、JICA二本松訓練所発足からお世話になっている公益財団法人二本松青年会議所の神野聴文理事長にお話を伺いました!

JICA二本松訓練所とはどのような関わりがありますか?
　団体として関わりを持たせて頂いている中で、多くの学びと気づきを頂いております。その機会をもっと増やしながら私たちだけではなく、子どもたちを含む市民の皆様にその機会をもって頂けるよう運動を行って参ります。

二本松青年会議所ではどのような活動をしていますか?
　40歳以下の青年が時代の変化に対応しながら地域の健全な発展のために運動を行っております。本年代表的なものでは、郷土史である二本松少年隊から郷土愛と命の大切さを学んで頂く出前授業を市内各小学校で行いました。そして、11月には最大の運動の発信の場である福幸祭・第7回二本松少年隊花火大会と我々が伝えたい思いを発信しております。

神野さん自身、青年会議所の理事長として二本松をどうしていきたいですか?
　非常に難しい質問です。社会的な豊かさなのか、心の豊かさなのか、只、今私が個人として出来る事は本当に僅かですが、メンバーと共に失敗を恐れずに運動をする事で地域の健全な発展と、子どもたちの未来のための一助となればと考えます。

訓練生に期待すること はありますか?
　それぞれの職能において最善を尽くし任国においてのご活躍と、期間満了後そこでの学びを日本の為に活かして頂きたい。

青年海外協力隊員に励ましの言葉 をいただけますか?
　環境の違う中で、多くの壁がある事だと思います、よく乗り越えられない壁は無いと言われますが、熟慮し最善を尽くして下さい。何よりも無事赴任期間を終え家族、友人、愛する人の元へお帰り下さい。

二本松青年会議所が主催となって毎年11月に開催される福幸祭

多くの訓練生も福幸祭を楽しむ

EVENT
イベント

＼イベント報告／

JICA 二本松訓練所 1日体験入隊 開催！

訓練生との昼食交流会

JICA二本松訓練所所長による必勝講座

10月23日(日)、JICA二本松訓練所で2016年度JICAボランティア秋募集「1日体験入隊」を開催しました!

福島県内で開催されるJICAのイベントとしては名物企画となっており、本気でJICAボランティアを目指したいと考えている方々が早々と参加を申し込みました。

今回も1日体験入隊の受付開始と同時に多くの方から参加表明をいただくと共に10月15日(土)に開催されたJICA東北の募集説明会で1日体験入隊を案内をしたため、福島県外からも多くの参加申し込みがありました。

当日はJICAボランティアを題材とした映画「クロスロード」を上映。映画を通して多くの参加者がJICAボランティアのイメージをつかむことができました。また訓練所の特性を大いに生かし、現在訓練を行っている2016年度3次隊訓練生との昼食交流会では、訓練の内容や語学授業に対する不安、派遣国でどのような活動を展開したいかなど、イベント参加者から多くの質問をいただきました。

午後のJICA二本松訓練所長による必勝講座では、これまでの経験をどのようにアピールしていくか、またJICAボランティアとしての心構えを学びました。その後は経験者(OV)による体験談や帰国後の進路相談室が開かれ、現地での生活・活動のリアルな話に耳を傾け、相談し、参加者の皆さんからは不安を解消した様子がうかがえました。

安達太良山の「ほんとうの空」のもと、多くの参加者が晴れ晴れとした表情で帰路につきました!

Visit ふくしま2016 開催！

毎年、ふくしま青年海外協力隊の会が主催となって全国のJICAボランティア経験者に声をかけ福島の現状を知ってもらうための「ふくしま応援ツアー」を実施していました。

今年度はJICA二本松訓練所で「Visit ふくしま」と題し、現在訓練を受けている2016年度3次隊の訓練生と青年海外協力隊経験者がともに被災地の経験を共有し協力隊の経験をどのように地域に還元するかを学びます。

★日時／12/10(土)～11日(日)

★場所／JICA二本松訓練所

講　座

- A 岩手・宮城・福島の現状と課題
- B 災害発生時に私達にできること ～職業人として、OVとして～
- C 福島の経験を未来へ ～子どもたちを守るために～
- D 福島の経験を未来へ ～人々の生活を支える～
- E 協力隊経験を地域で生かす
- F 福島の家族会議After3.11

イベントカレンダー

11月 9日(水)	2016年度3次隊 シニア海外ボランティア修了式
12月10日(土)～11日(日)	Visit ふくしま 2016
12月14日(水)	2016年度3次隊 青年海外協力隊 修了式
2017年1月5日(木)	2016年度4次隊 入所式

福島にゆかりのある

JICAボランティア

2016年度第3次隊

※①出身地　②派遣予定国　③職種

青年海外協力隊
渡辺あすみ（わたなべ）さん
①福島市
②マラウイ
③コミュニティ開発

昔から海外に興味があり、日本と途上国のギャップを目の当たりにした際、途上国の人々のためにできることをしたいと感じました。

マラウイでは現地の人々の生活改善につながるような活動をしたいです。

青年海外協力隊
長沼舞子（ながぬま まいこ）さん
①伊達市
②ヨルダン
③音楽

訓練所に入所するときに、たくさんの励ましと激励をいただきました。この訓練では派遣前の準備をしっかりと整え、ヨルダンでは音楽を楽しめる環境づくりを重視したいです。

青年海外協力隊
西間木暁（にしまき あきら）さん
①須賀川市
②ドミニカ共和国
③自動車整備

「自動車整備」という職種は要請の多さに対し応募者が少ないのが現状です。私の活動を通して任国の技術力向上を図りたいです。そして日本国内でその活動を紹介していき、自動車整備の応募者を増やしていきたいです。

福島県出身ボランティア

市町村別 派遣中隊員数

2016年10月31日現在
合計派遣中：26名　累計：731名

青年海外協力隊			
派遣中	24	累　計	669

シニア海外ボランティア			
派遣中	1	累　計	46

日系社会青年ボランティア			
派遣中	0	累　計	10

日系社会シニアボランティア			
派遣中	1	累　計	6

\ JICA二本松になんでも相談！ /

なんでも相談窓口

受け付け内容はJICAに関すること全て！

例）・青年海外協力隊とシニア海外ボランティアに関すること
（応募・選考、職種選び、派遣前訓練、現地のサポート、健康面、語学etc.）

- 草の根技術協力
- 中小企業海外展開支援等
- JICA二本松施設訪問
- JICAプロジェクト現場訪問
- 研修員受け入れ
- 共催イベント
- 講師派遣依頼
- 大学連携

※いただいた個人情報は本業務以外には使用致しません。

ぜひ一度ご相談ください！

JICA二本松　何でも相談窓口

公式SNSラジオ番組のご案内

JICA二本松 公式Facebook

青年海外協力隊の訓練の様子をのぞいてみよう!!

毎日、更新中!
https://www.facebook.com/jicantc

ふくしまFM

キミノチカラ、海を越えて
～青年海外協力隊の道～

世界各国で活躍した隊員をゲストに迎え、参加の動機から任地での活動、帰国後のお話を2週に渡ってたっぷりうかがいます。

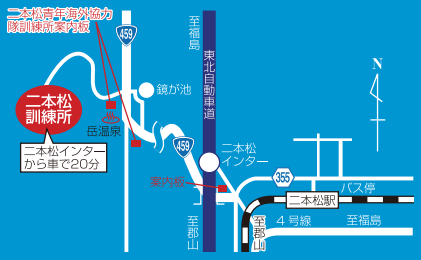
毎週土曜／8:30～8:55

FM Mot.Com

世界も、自分も、変えるラジオ

二本松訓練所の訓練生がつくる番組です。熱い想いが詰まった60分!

第2木曜／13:00～14:00
（再放送：第3木曜/13:00～14:00）



発行元
独立行政法人国際協力機構
二本松青年海外協力隊訓練所
〒964-8558 福島県二本松市永田字長坂4-2
Tel: 0243-24-3200　Fax :0243-24-3214

●本誌に関するお問合わせ
JICA福島デスク　担当:室井(むろい)　Tel:024-524-1315　Fax:024-524-8308
〒960-8103 福島市舟場町2−1（公財）福島県国際交流協会内